
編集後記

平成3年9月18日に公団の土木技術の粋を集めた湾岸線3・4期が供用されました。今や大阪湾のシンボルとして無くてはならない港大橋をはじめ大阪港ジャンクションや北港ジャンクション、さらに天保山大橋や梅町大橋、正蓮寺川大橋、中島川橋、神崎川橋と長大橋の連なる様はまさに大阪港の一大パノラマとしてすえ長く阪神間の市民に愛されるものと思われます。

このように最近の我が公団の長大橋に係る技術開発には刮目に値するものがあります。一方、我が国的高速道路は1960年代より急速に発展を遂げ供用後30年強を経た現在、あちらこちらから維持補修の必要性の声が聞こえてきます。このように新しい技術開発はまた新たな問題を引き起しますがそれを凌駕してさらなる技術向上が生れてくるものと思われます。

しかしながら今日のように高度成長を遂げた社会において、一つの問題を解決するには、多岐にわたる検討が必要になってきます。そのためには各分野にわたる互の研究テーマを発表し意見交換の場を因ることが大切に思われます。今回の技報も前回までと同様ですが計画分野にはじまり設計、施工さらに管理分野にわたる幅広い分野の論文を掲載しています。このようにみなさんの努力の積み重ねが将来の土木技術のパラダイムを築くいしづえになるものと確信しています。

最後になりましたが、巻頭言を執筆していただいた松橋常任参与、編集委員長の魁受審議役をはじめ論文発表者ならびに発刊にご尽力いただいた委員、幹事の皆様および管理技術センターの関係者に深く感謝いたします。

(前川 記)
